



IT Automation

クイックスタート

※本書では「Exastro IT Automation」を「ITA」として記載します。

Exastro IT Automation Version 1.7.2
Exastro developer

目次

1. はじめに

- 1.1 [はじめに](#)
- 1.2 [本書のシナリオと作業範囲の位置づけ](#)
- 1.3 [各種用語の説明](#)

2. 画面説明

- 2.1 [Webコンソール画面\(ログイン\)](#)
- 2.2 [画面説明\(メインメニュー\)](#)
- 2.3 [画面説明\(各メニュー\)](#)

3. 実行前準備

- 3.1 [Playbookをアップロードしてジョブ\(Movement\)に紐付け](#)
- 3.2 [ジョブ\(Movement\)をジョブフロー\(Conductor\)に組込み](#)
- 3.3 [CMDBにデータシートとパラメータシートを設定](#)
- 3.4 [データシートにデータを登録](#)
- 3.5 [パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け](#)

4. 実行操作(1回目)

- 4.1 [機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録](#)
- 4.2 [作業名\(Operation\)の登録](#)
- 4.3 [パラメータシートにデータを登録](#)
- 4.4 [ジョブフロー\(Conductor\)の実行](#)
- 4.5 [実行結果の確認](#)

目次

5. 実行操作(2回目)

- 5.1 [作業名\(Operation\)の登録](#)
- 5.2 [パラメータシートにデータを登録](#)
- 5.3 [ジョブフロー\(Conductor\)の実行](#)
- 5.4 [実行結果の確認](#)

6. CMDBパラメータの履歴確認

- 6.1 [作業実行と履歴管理](#)
- 6.2 [CMDBパラメータの履歴を確認する](#)

A 付録

- 参考① [【Ansible-Legacy】単体実行](#)
- 参考② [【Ansible-Legacy】実行確認](#)

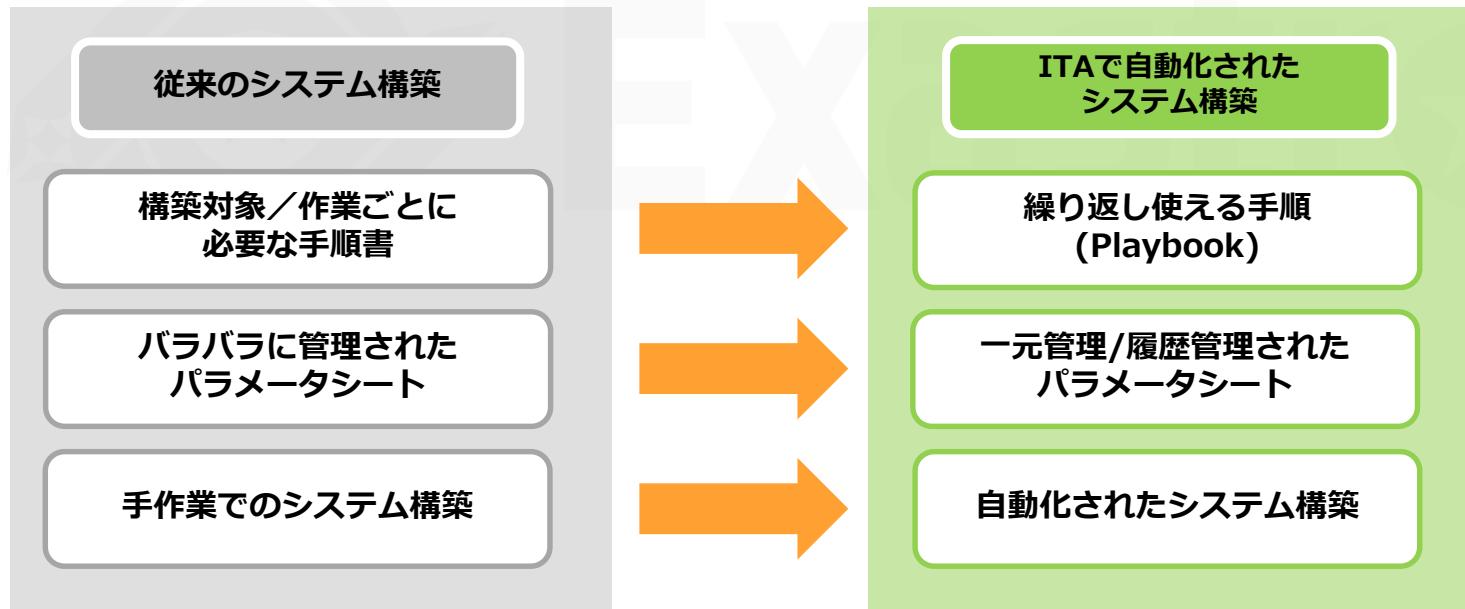
1. はじめに



1.1 はじめに (1/2)

本書は、はじめて IT Automation (以下ITAと記載) に触れるユーザが、ITAのインターフェースをスムーズに体感できるクイックスタートの手順書としてご活用できます。

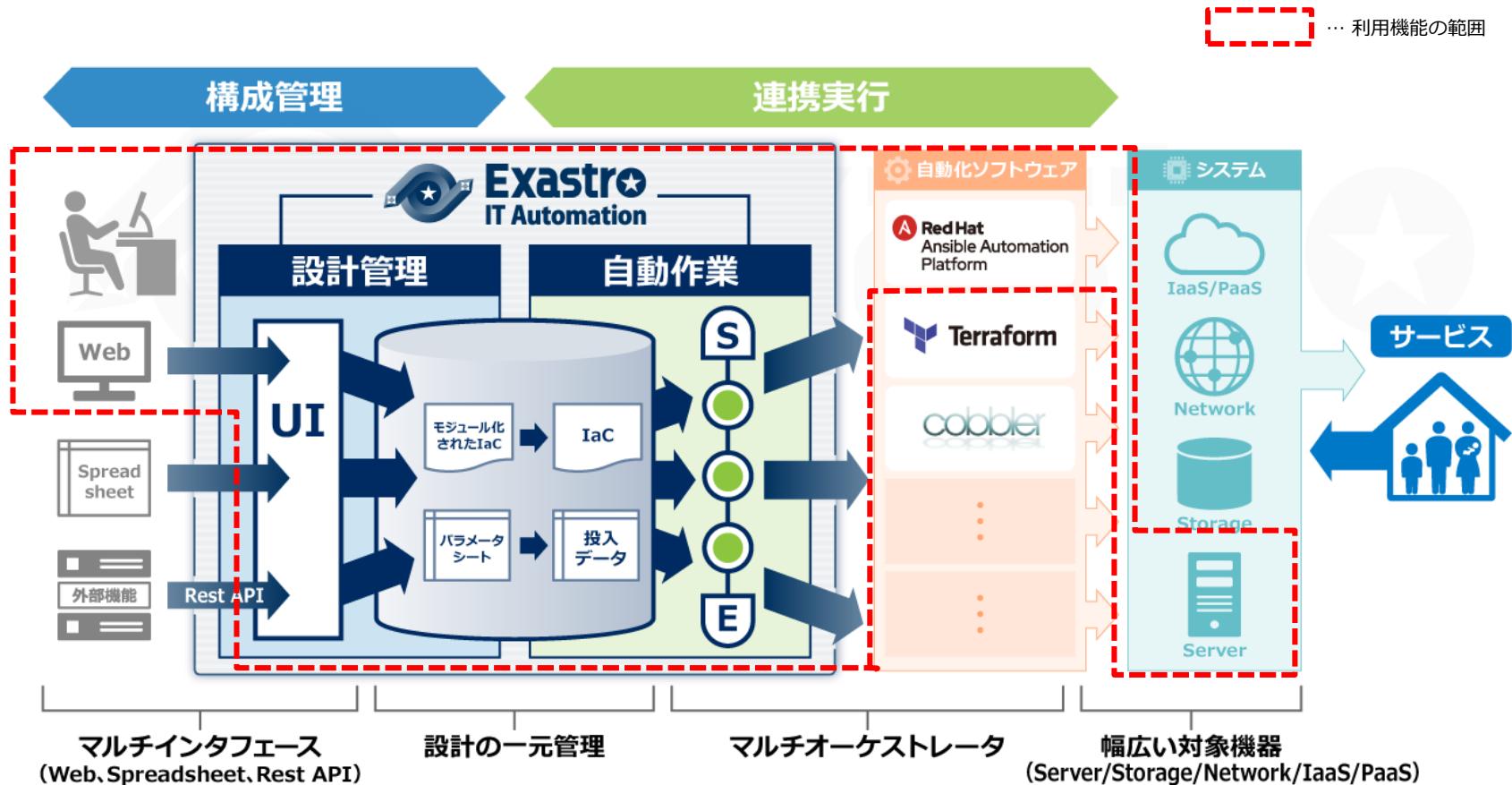
システム構築においてよくあるLinuxサーバのパッケージのインストール作業を通して、構築対象サーバごとの作業とパッケージ管理を自動化・一元管理化を行い、従来のシステム構築とは異なるITAを使用した効率的なシステムを体感できます。



1.1 はじめに (2/2)

■ 本クイックスタートで体感できる主なITA機能の範囲

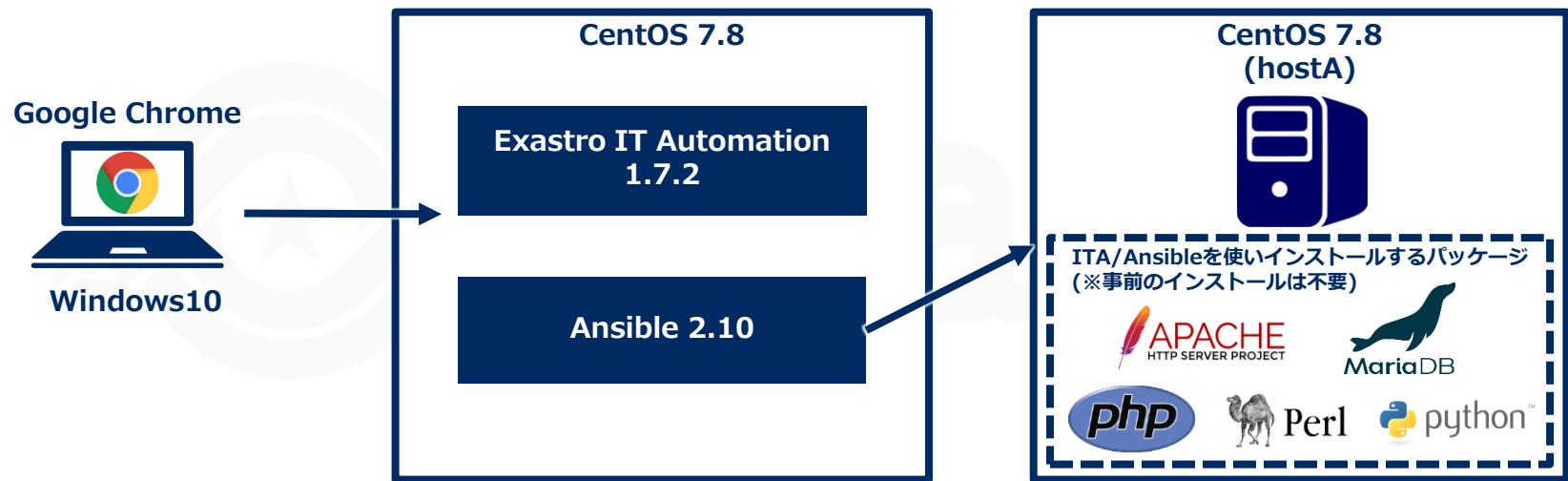
- ・自動化ソフトウェア(Ansible)との連携
- ・パラメータ管理(メニュー作成・登録・履歴管理等)
- ・変数紐付け(代入値自動登録)



1.2 本書のシナリオと作業範囲の位置づけ (1/3)

本シナリオではAnsibleドライバを使用し、Linuxサーバ構築で実施するyumパッケージのインストール作業を構築対象サーバごとにパラメータ管理し、構築作業の自動化を行う内容となっています。

■ 作業環境

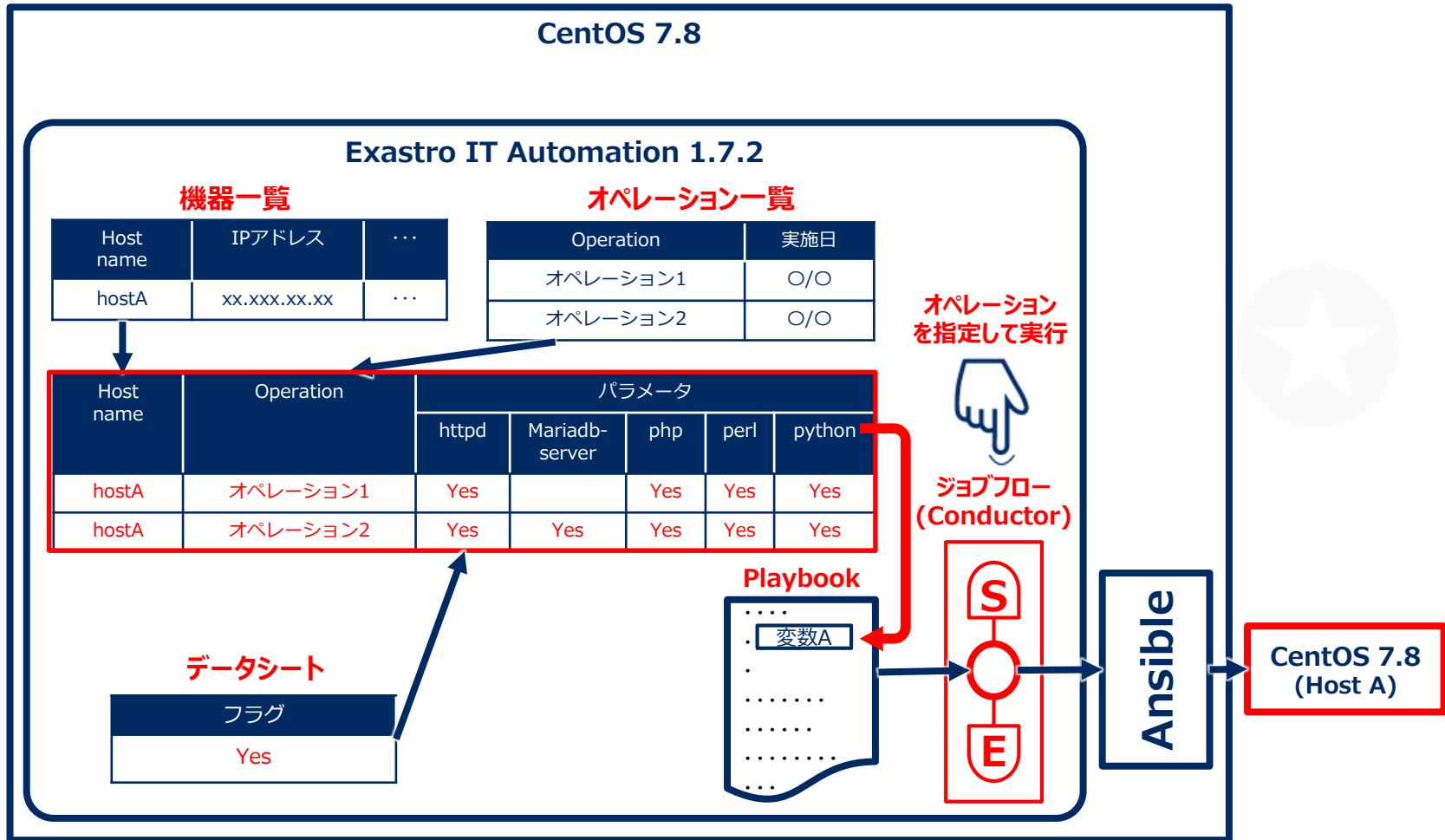


使用するシステム

- Exastro IT Automation 1.7.2
- CentOS Linux 7.8(ITAサーバ用)
- CentOS Linux 7.8(ターゲットマシン用)
- Windows 10(クライアント)
- Google Chrome (Win10側)

1.2 本書のシナリオと作業範囲の位置づけ (2/3)

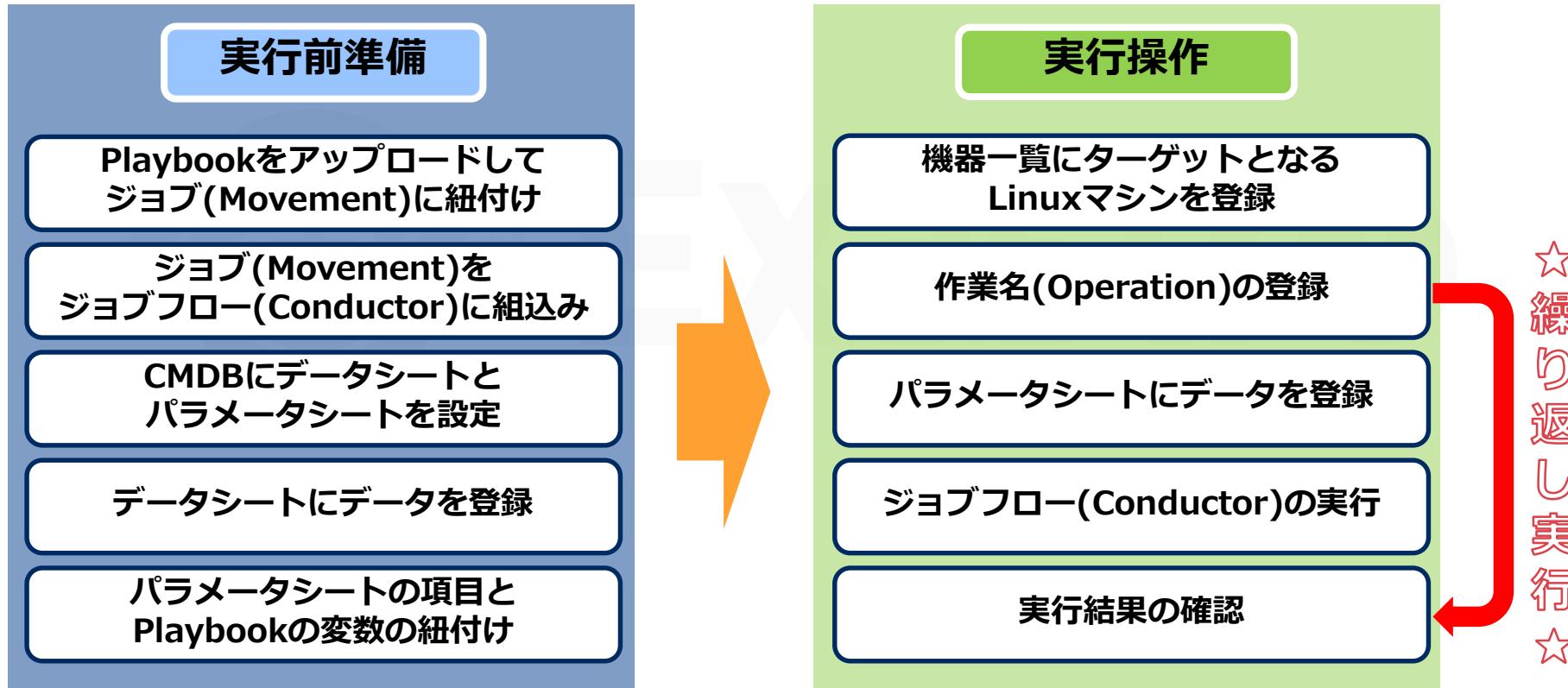
シナリオの実行イメージ



1.2 本書のシナリオと作業範囲の位置づけ (3/3)

インストール後からAnsible-Legacyを実行するまでのシナリオ

- シナリオと、開発者(実行前準備)／作業者(実行操作)の作業範囲については以下の通り。



1.3 各種用語の説明

■ 本シナリオに登場する主な用語

用語	説明
Playbook	定型業務をタスクで記述し、Ansibleに実行させるためのファイルです。YAML形式で使用します。
Ansible-Legacy	ITA から Ansible を利用する機能です。Legacy コンソールでは、構築コードとして単体のYAMLファイルを使う場合に使用します。
オペレーション名 (Oparation)	ITA での作業実行単位。作業予定、実行履歴などを管理することができます。
Conductor	ITA での一連の作業の単位。オペレーション名と関連付けて実行します。Node と呼ぶ各種パートを組み合わせて、ワークフローを作成し、複数の機器に対して、一連の構築・設定などの作業を行います。
Movement	各機器に対する構築ツールを使った構築、設定などの作業の単位。

用語の説明については[ファーストステップガイド](#)をご参照ください。

またExastro ITAについてのより詳しい説明は[ドキュメントサイト](#)をご活用ください。

2. 画面説明



2.1 Webコンソール画面（ログイン）

Webコンソールログイン

- ITAのインストールが完了しURLへアクセスすると、ログイン画面が表示されます。
※インストール手順については”[IT Automation オンラインインストール](#)”をご参照ください。



Point

初回ログイン時は、ログイン直後に
パスワード変更を求められます。

2.2 画面説明(メインメニュー)

画面説明 (メインメニュー)

- 基本的な名称は以下の通りです。

Exastro IT Automation 管理コンソール

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
[パスワード変更] [ログアウト]

Menu

メインメニュー

- システム設定
- メニュー グループ管理
- メニュー管理
- ロール管理
- ユーザ管理
- ロール・メニュー組付管理
- ロール・ユーザ組付管理
- シーケンス管理
- SSO基本情報管理
- SSO属性情報管理
- バージョン確認

管理者に連絡

DASHBOARD

メニュー グループ

Management Console Basic Console Export/Import Symphony Conductor Inventory Management

Inventory Management Create Menu Comparison Host Group Management Ansible-Legacy

Ansible-Pioneer Ansible-LegacyRole Cobbler Terraform

Movement Status Result

Point

各機能の詳細はマニュアルを参照してください。

2.3 画面説明(各メニュー) (1/2)

画面説明 (各メニュー)

- 基本的な名称は以下の通りです。

The screenshot shows the Ansible-Legacy interface for movement registration. A red box highlights the sub-menu "表示フィルタ" (Display Filter) which is open. The sub-menu contains fields for filtering by Movement ID, name, and creator, along with buttons for "Filter" and "Clear".

■ サブメニューの概略

- 説明** : 表示中メニューの説明
- 表示フィルタ** : 登録情報の検索機能
- 一覧/更新** : 登録情報の表示

Point

各機能の詳細は
[マニュアル](#)を参照してください。

Exastro

2.3 画面説明(各メニュー) (2/2)

画面説明 (各メニュー)

- 基本的な名称は以下の通りです。

The screenshot shows the Ansible-Legacy application interface. On the left is a vertical sidebar with the Exastro IT Automation logo and a navigation menu:

- ☰ Menu
- メインメニュー
- Movement一覧
- Playbook素材集
- Movement-Playbook紐付
- 代入他自動登録設定
- 作業対象ホスト
- 代入値管理
- 作業実行
- 作業状態確認
- 作業管理

The main content area displays several menu items:

- 説明
- 表示フィルタ
- 一覧/更新
- 登録
 - 登録開始
 - 全件ダウンロードとファイルアップロード編集
 - 全件ダウンロード(Excel)
 - 新規登録用ダウンロード(Excel)
 - ファイルを選択: 選択されていません
 - アップロード状況:
ファイルアップロード
- 変更履歴
- MovementID
- 表示
- リセット

A red box highlights the "登録" (Registration) section, which is labeled as a "サブメニュー" (Submenu). A callout points to the "△閉じる" (Close) button with the text "サブメニュー".

A red box also highlights the "変更履歴" (Change History) section.

■サブメニューの概略

- 登録** : Webからのレコード登録
- 全件ダウンロードとファイルアップロード編集** : ExcelからのIN/OUT処理
- 変更履歴** : 登録レコードの変更履歴

Point

各機能の詳細は
[マニュアル](#)を参照してください。

3. 実行前準備



3.1 Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け (1/5)

Playbookの準備

- 最初に今回利用するPlaybookの作成をします。

お好みのエディタを使用してymlを作成し自身のローカルフォルダに保存してください。

yum_package_install.yml

```
- name: install the latest version of packages
  yum:
    name: "{{ item }}"
    state: latest
  with_items:
    - "{{ VAR_packages }}"
```

Point

文字コードは“UTF-8”、改行コードは“LF”、拡張子は“yml”形式。また、インデントにご注意ください。

*** yum_package_install.yml x

```
1   name: install the latest version of packages
2   yum:
3     name: "{{ item }}"
4     state: latest
5   with_items:
6     - "{{ VAR_packages }}"
7
```

Playbookをアップロードして
ジョブ(Movement)に紐付け

ジョブ(Movement)を
ジョブフロー(Conductor)に組込み

CMDBにデータシートと
パラメータシートを設定

データシートにデータを登録

パラメータシートの項目と
Playbookの変数の紐付け

機器一覧にターゲットとなる
Linuxマシンを登録

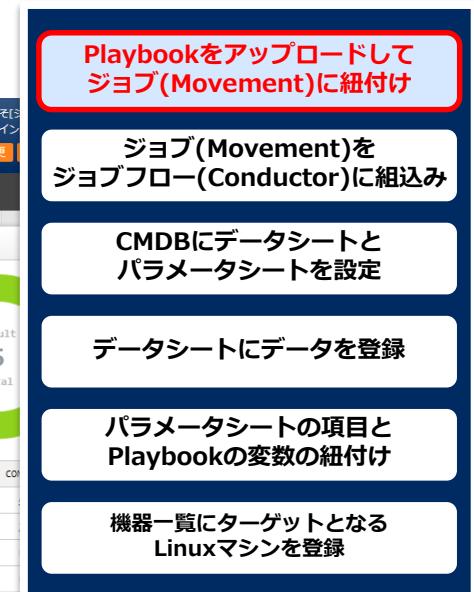
3.1 Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け (2/5)

「Movement一覧」へ新規Movementを登録

- 次にMovementの登録を行っていきます。

メインメニューより、「Ansible-Legacy」メニューグループ >> 「Movement一覧」メニューをクリックします。

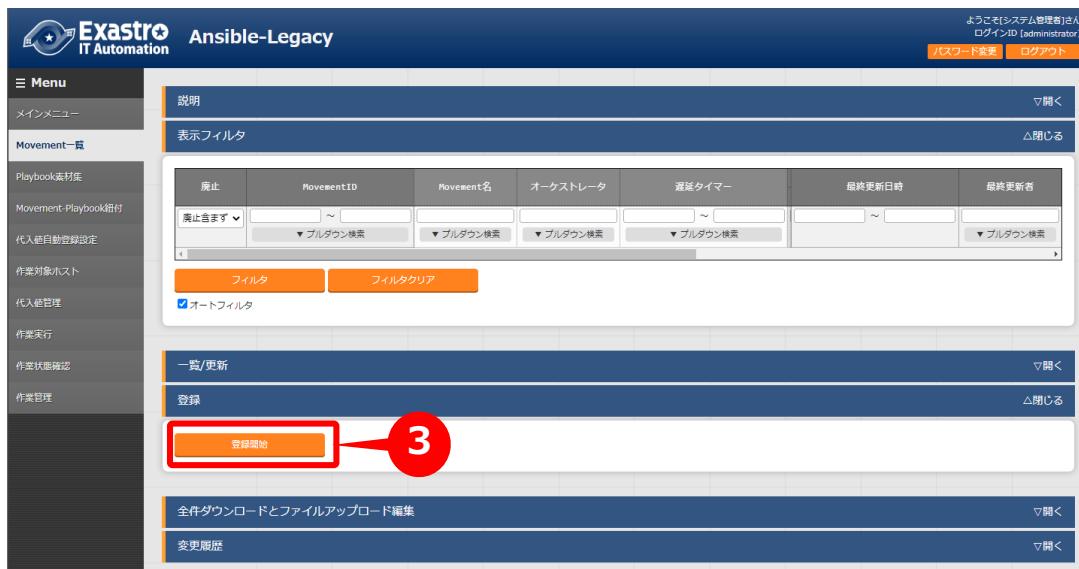
The screenshot shows the Exastro IT Automation interface. On the left, there's a sidebar with various menu items. The 'Movement' item is highlighted with a red box and a red circle containing the number 1. In the main content area, there's a grid of icons. One specific icon, which is a crown icon labeled 'Ansible-Legacy', is highlighted with a red box and a red circle containing the number 2. The dashboard also includes sections for 'Status' and 'History'.



3.1 Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け (3/5)

「Movement一覧」へ新規Movementを登録

- 「登録開始」ボタンをクリック。
各項目へ下表のように入力し、登録をクリックしてください。



The screenshot shows the Ansible-Legacy interface with the title 'Movement一覧'. On the left is a sidebar with various menu items like 'Menu', 'Ansible-Legacy', 'Movement一覧', etc. The main area has a search bar and a table with columns: 廃止, MovementID, Movement名, オーケストレータ, 遅延タイマー, 最終更新日時, and 最終更新者. Below the table are two buttons: 'フィルタ' and 'フィルタクリア'. At the bottom of the registration form, there is a red box around the '登録開始' button.



The screenshot shows the '登録' (Register) step of the movement creation process. It displays a form with fields for MovementID, Movement名 (set to 'パッケージインストール'), 遅延タイマー, and ホスト指定形式 (set to 'IP'). A red box highlights the '登録' button. A callout box on the right shows the filled-in values: Movement名: パッケージインストール and ホスト指定形式: IP.

3.1 Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け (4/5)

「Playbook素材集」へ新規Playbookを登録

- 次に作成したPlaybookの登録を行います。

「Ansible-Legacy」メニューグループ >> 「Playbook素材集」メニューをクリック。

登録開始をクリックし、各項目へ下表のように入力し登録をクリックしてください。

The screenshot shows the Ansible-Legacy interface with the 'Playbook素材集' menu item highlighted. A red box labeled '1' points to the 'Playbook素材名' field in the registration form, which contains 'yum_package_install'. Another red box labeled '2' points to the 'Playbook素材' field, which contains 'yum_package_install.yml'. A red box labeled '3' points to the '登録' (Register) button at the bottom of the form. A red callout bubble labeled 'Point' points to the '事前アップロード' (Pre-upload) button in the file selection dialog.



Playbookをアップロードする場合
ファイル指定後は必ず

「事前アップロード」ボタンをクリックしてください。

3.1 Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け (5/5)

「Movement-Playbook紐付」への登録

- 次に登録したPlaybookをMovementに紐付けます。

「Ansible-Legacy」メニューグループ >> 「Movement-Playbook紐付」メニューをクリック。各項目へ下表のように入力、選択し登録をクリックしてください。

Movement	Playbook素材	インクルード順序
パッケージインストール	yum_package_install	1

Playbookをアップロードして
ジョブ(Movement)に紐付け

ジョブ(Movement)を
ジョブフロー(Conductor)に組込み

CMDBにデータシートと
パラメータシートを設定

データシートにデータを登録

パラメータシートの項目と
Playbookの変数の紐付け

機器一覧にターゲットとなる
Linuxマシンを登録

※*は必須項目です。

Point

Movement 1つに対し複数のPlaybookを登録する場合、インクルード順序を指定 1 : 1 の場合は1を入力してください。

登録

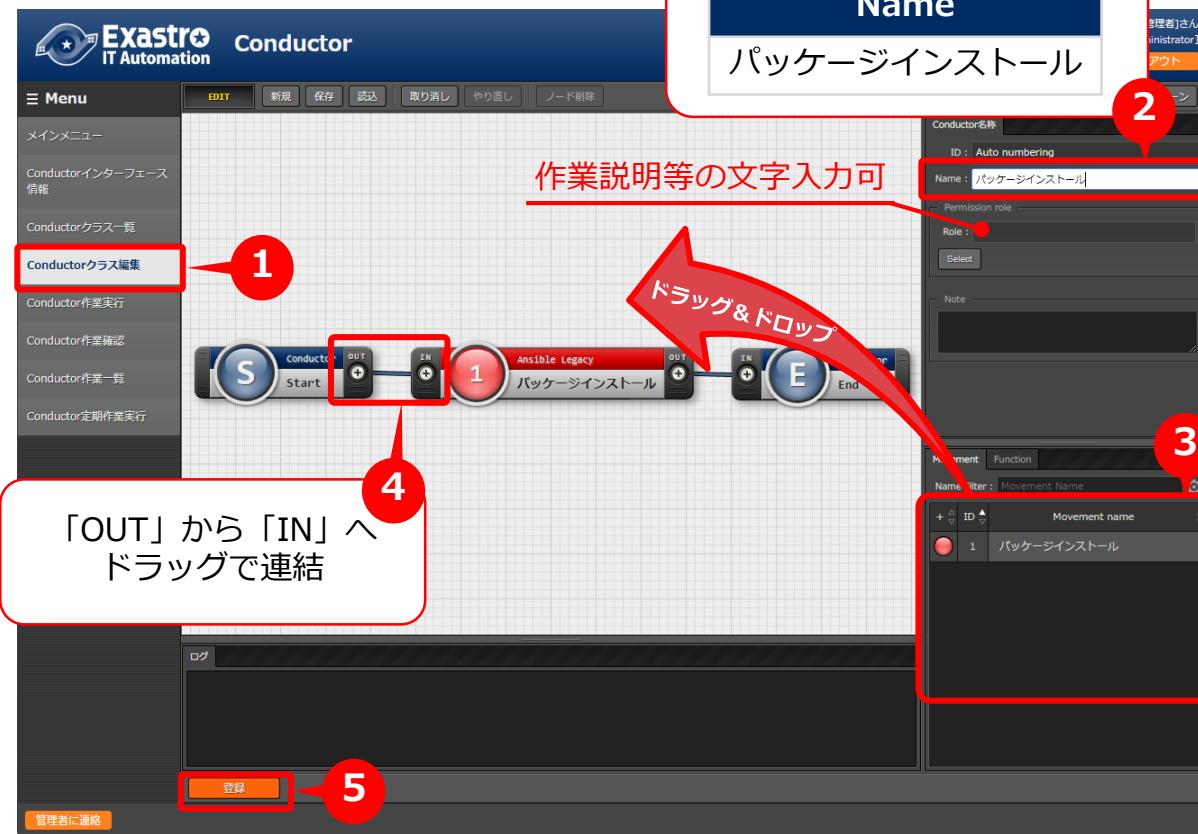
3.2 ジョブ(Movement)をジョブフロー(Conductor)に組込み

「Conductor」を作成する

- 次にMovementをConductorに組み込んでいきます。

「Conductor」メニューグループ >> 「Conductorクラス編集」メニューをクリック。

下記の順番の通り入力、移動、連結させ登録をクリックしてください。



3.3 CMDBにデータシートとパラメータシートを設定(1/4)

データシートを作成する

- 次にデータシートを作成します。

「メニュー作成」メニューグループ >> 「メニュー定義/作成」メニューをクリック。

各項目へ下表のように入力、選択し作成をクリックしてください。

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface. On the left, a sidebar has a red box around the 'メニュー定義・作成' (Menu Definition Creation) option, with a red circle labeled '1' above it. A red box highlights the 'パッケージフラグ' (Package Flag) configuration window, which includes fields for '最大バイト数' (Max Bytes) set to 32, and checkboxes for '必須' (Required) and '一意制約' (Unique Constraint). A red circle labeled '2' points to the 'Create' button in this window. In the center, a large red box encloses the 'メニュー名' (Menu Name) creation window. It shows 'メニュー名' set to 'フラグ定義', '作成対象' (Creation Target) set to 'データシート', and '表示順序' (Display Order) set to 2. Below this window is a table showing the configuration for the 'パッケージフラグ' field. The table has columns: '項目名' (Item Name), '入力方式' (Input Method), '最大バイト数' (Max Bytes), '必須' (Required), and '一意制約' (Unique Constraint). The entry is: 'パッケージフラグ' | '文字列(單一行)' | '32' | '✓' | '✓'. A red circle labeled '3' points to this table. At the bottom right of the central window is a note: '※*は必須項目です。' (* indicates required items). A red circle labeled '4' points to the '作成' (Create) button at the bottom left of the central window.



3.3 CMDBにデータシートとパラメータシートを設定(2/4)

パラメータシートを作成する

- 次にパラメータシートの作成を行います。

「メニュー作成」メニューグループ >> 「メニュー定義/作成」メニューをクリック。

各項目へ下表のように入力、選択して下さい。(次ページへ続く)

2 グループをクリック

1 グループ名
インストールパッケージ

3 グループ名
インストールパッケージ

メニュー名	作成対象	表示順序
インストールパッケージ一覧	パラメータシート (ホスト/オペレーション含む)	1

- Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け
- ジョブ(Movement)をジョブフロー(Conductor)に組込み
- CMDBにデータシートとパラメータシートを設定**
- データシートにデータを登録
- パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け
- 機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録

3.3 CMDBにデータシートとパラメータシートを設定(3/4)

■ パラメータシートを作成する

- 項目を追加し、各項目へ下表のように入力、選択して下さい。(次ページへ続く)

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface. On the left, there's a sidebar with 'Menu' items like 'メインメニュー', 'メニュー定義・作成', 'メニュー定義一覧', and 'メニュー作成履歴'. The main area has tabs '項目' (selected), 'グループ', 'リピート', '取り消し', and 'やり直し'. A red circle labeled '4' points to a modal window titled 'httpd' which contains five dropdown menus for selecting parameters. Another red circle labeled '5' points to a table below where these entries are mapped to specific fields.

4 項目が5個になるようにクリック

5

項目名	入力方式	選択項目
httpd	プルダウン選択	入力用:フラグ定義:パラメータ/パッケージフラグ
mariadb-server	プルダウン選択	入力用:フラグ定義:パラメータ/パッケージフラグ
php	プルダウン選択	入力用:フラグ定義:パラメータ/パッケージフラグ
perl	プルダウン選択	入力用:フラグ定義:パラメータ/パッケージフラグ
python	プルダウン選択	入力用:フラグ定義:パラメータ/パッケージフラグ

Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け
ジョブ(Movement)をジョブフロー(Conductor)に組込み
CMDBにデータシートとパラメータシートを設定
データシートにデータを登録
パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け
機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録

3.3 CMDBにデータシートとパラメータシートを設定(4/4)

パラメータシートを作成する

- 項目の移動が完了できたら作成をクリックして下さい。

The screenshot shows the 'Parameter Sheet' creation screen in the Exastro IT Automation interface. The main window displays five columns of input fields: 'httpd', 'mariadb-server', 'php', 'perl', and 'python'. Each column has a red box around its header and a red arrow pointing from the 'perl' and 'python' columns towards the 'httpd' and 'mariadb-server' columns, indicating a dragging-and-dropping operation. A red circle with the number 6 is placed over the 'perl' and 'python' headers. A large red circle with the number 7 is placed over the 'httpd' and 'mariadb-server' headers. A red circle with the number 8 is placed over the orange '作成' (Create) button at the bottom left.

6 カラムグループの領域に項目をドラッグ&ドロップ

7 すべての項目を移動すると以下のようになります

8 作成

メニュー作成

メニュー定義・作成

Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け

ジョブ(Movement)をジョブフロー(Conductor)に組込み

CMDBにデータシートとパラメータシートを設定

データシートにデータを登録

パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け

機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録

3.4 データシートにデータを登録

「フラグ定義」へ新規データを登録

- 先ほど作成したフラグ定義(データシート)にデータの登録を行います。
「入力用」メニューグループ >> 「フラグ定義」メニューをクリック。
項目へ下表のように入力し登録をクリックして下さい。

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface with the following details:

- Header:** ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パスワード変更 ログアウト
- Left Sidebar:** Exastro IT Automation 入力用
Menu
メインメニュー
インストールパッケージ一覧
Flag Definition (highlighted with a red box)
- Central Area:**
 - 説明** (Description) and **表示フィルタ** (Display Filter) sections.
 - Table View:** Shows columns: 状態 (Status), No., パッケージフラグ (Package Flag), アクセス権 (Access Rights), 備考 (Remarks), 最終更新日時 (Last Updated Date), and 最終更新者 (Last Updated By).
 - Modal Window:** A modal window titled "パッケージフラグ" (Package Flag) is open, showing the value "Yes".
 - Form View:** A form for "パッケージフラグ" (Package Flag) with fields: No. (自動入力 - Auto Input), パッケージフラグ* (Yes), アクセス権 (Access Rights), and a "設定" (Set) button.
 - Buttons:** 戻る (Back), 登録 (Register) (highlighted with a red box), and 全件ダウンロードとファイルアップロード編集 (All items download and file upload edit).



3.5 パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け(1/3)

「代入値自動登録設定」作成

- 最後に代入値自動登録を行います。

「Ansible-Legacy」メニューグループ >> 「代入値自動登録設定」メニューをクリック。

各項目へ下表のように入力、選択して下さい。(次ページへ続く)

Ansible-Legacy

説明

表示フィルタ

一覧/更新

登録

パラメータシート (From)

項目番号

Movement Group: メニュー

最終更新日時

最終更新者

自動入力

2100011611:代入値自動登録用:3:インストールパッケージ一覧

パラメータ/インストールパッケージ/httpd

Key型

1:パッケージインストール

1:VAR_packages

1

2100011611:代入値自動登録用:3:インストールパッケージ一覧

パラメータ/インストールパッケージ/mariadb-server

Key型

1:パッケージインストール

1:VAR_packages

2

2100011611:代入値自動登録用:3:インストールパッケージ一覧

パラメータ/インストールパッケージ/php

Key型

1:パッケージインストール

1:VAR_packages

3

2100011611:代入値自動登録用:3:インストールパッケージ一覧

パラメータ/インストールパッケージ/perl

Key型

1:パッケージインストール

1:VAR_packages

4

2100011611:代入値自動登録用:3:インストールパッケージ一覧

パラメータ/インストールパッケージ/python

Key型

1:パッケージインストール

1:VAR_packages

5

Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け

ジョブ(Movement)をジョブフロー(Conductor)に組込み

CMDBにデータシートとパラメータシートを設定

データシートにデータを登録

パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け

機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録

3.5 パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け(2/3)

「代入値自動登録設定」作成

- 各項目へ入力、選択が完了したら登録をクリックして下さい。

The screenshot shows the Exastro IT Automation web interface. On the left, a sidebar menu includes 'Ansible-Legacy' under 'Movement一覧'. The main area displays a registration form for '代入値自動登録設定'. The '登録' tab is selected. A red box highlights the data entry table. A red circle with the number '2' points to the '登録' (Register) button at the bottom of the form. To the right, five blue-bordered boxes provide context:

- Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け
- ジョブ(Movement)をジョブフロー(Conductor)に組込み
- CMDBにデータシートとパラメータシートを設定
- データシートにデータを登録
- パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け
- 機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録

Point

変数紐づけの登録方式は以下の3タイプがあります。

登録方式	今回使用	説明
Value型		基本的なタイプであり、表の中の値を変数に紐づけるものです。
Key型	●	表の項目(列名)を変数に紐づけるものです。項目の設定値が空白の場合は紐づけ対象外になります。
Key-Value型		項目の名称(Key)と設定値(Value)の両方を変数に紐づけることができます。

今回のシナリオでは、表の項目(列名)をPlaybookに具体値として代入したいので、登録方式は「Key型」を選択します。詳細はこちら[システム構築・運用の効率化ガイドブック](#)を参照してください。

3.5 パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け(3/3)

「代入値自動登録設定」作成

- 表示フィルタで5件のデータが登録できているかの確認を行って下さい。
ここまでで実行準備は終了になります。

Ansible-Legacy

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パスワード変更 ログアウト

説明

△閉じる

表示フィルタ

△開く

廃止 項番 メニューグループ 最終更新日時 最終更新者

ID 名称 ID

廃止含まず ~ ブルダウソ 検索 ブルダウソ 検索 ブルダウソ 検索 ブルダウソ 検索

3

4 フィルタ フィルタクリア

オートフィルタ

5 5件のデータが登録できているかを確認

一覧 更新

△閉じる

パラメータシート (From)

最終更新日時 最終更新者

履歴 更新 廃止 項番 メニューグループ メニュー 項目名

ID 名称 ID 名称

履歴	更新	廃止	項番	メニュー	項目名	最終更新日時	最終更新者
ID	名前	ID	名前	ID	名前	ID	名前
履歴	更新	廃止	1	2100011611	代入値自動登録用	3 インストールパッケージ	パラメータ/インストールパッケージ/httpd
履歴	更新	廃止	2	2100011611	代入値自動登録用	3 インストールパッケージ	パラメータ/インストールパッケージ/mariadb-serv
履歴	更新	廃止	3	2100011611	代入値自動登録用	3 インストールパッケージ	パラメータ/インストールパッケージ/php
履歴	更新	廃止	4	2100011611	代入値自動登録用	3 インストールパッケージ	パラメータ/インストールパッケージ/perl
履歴	更新	廃止	5	2100011611	代入値自動登録用	3 インストールパッケージ	パラメータ/インストールパッケージ/python

フィルタ結果件数: 5

Excel出力

管理者に連絡

管理者に連絡

Playbookをアップロードして
ジョブ(Movement)に紐付け

ジョブ(Movement)を
ジョブフロー(Conductor)に組込み

CMDBにデータシートと
パラメータシートを設定

データシートにデータを登録

パラメータシートの項目と
Playbookの変数の紐付け

機器一覧にターゲットとなる
Linuxマシンを登録

4. 実行操作(1回目)



4.1 機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録(1/3)

「機器一覧」へ新規ターゲットホストの登録

- 最初に機器一覧へ今回パッケージをインストールするターゲットホストを登録します。
「基本コンソール」メニューグループ >> 「機器一覧」メニューをクリック。
各項目へ下表のように入力して下さい。(次ページへ続く)

Exastro IT Automation 基本コンソール

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パスワード変更 ログアウト

☰ Menu
メインメニュー
機器一覧 (1)
オペレーション一覧
Movement一覧
ER図表示

説明
フィルタ
登録

△閉じる

EtherWakeOnLan

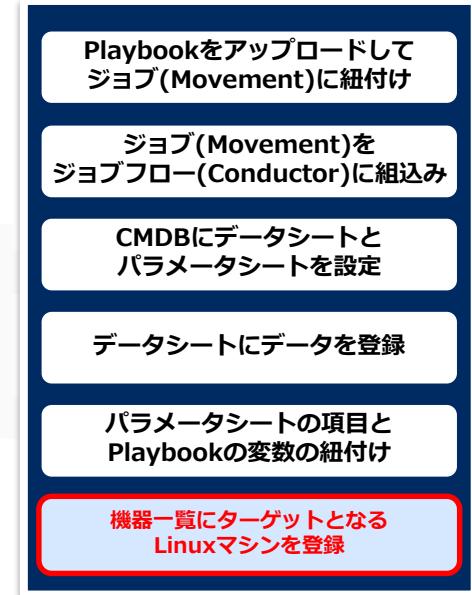
管理システム項目番号	HW機器種別	ホスト名*	IPアドレス*	MACアドレス	ネットワークデバイス名	ログ - 最終更新日時	最終更新者
自動入力	SV	hostA	192.168.10.1			自動入力	自動入力

※*は必須項目です。

2

HW機器種別	ホスト名	IPアドレス
SV	(任意のホスト名)	(任意のIPアドレス)

管理者に連絡



4.1 機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録(2/3)

「機器一覧」へ新規ターゲットホストの登録

- スクロールバーを右にスライドし各項目へ下表のように入力して下さい。(次ページへ続く)

Exastro IT Automation 基本コンソール

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
[パスワード変更] [ログアウト]

説明 ▽開く
表示フィルタ ▽開く
一覧/更新 ▽開く
登録 △閉じる

管理システム項目番号 ログインユーザID ログインパスワード ssh鍵認証情報

管理システム項目番号	ログインユーザID	管理	ログインパスワード	ssh鍵認証情報	最終更新日時	最終更新者
自動入力	root	●	*****	ssh秘密鍵ファイル ファイルを選択 選択されていません 事前アップロード アップロード状況:	自動入力	自動入力

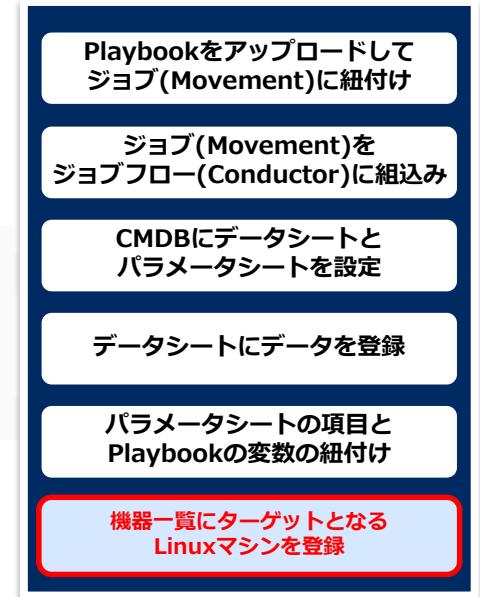
^{}は必須項目です。

2

ログインユーザID (任意のログインユーザID)	ログインパスワード管理 ●	ログインパスワード (任意のパスワード)
-----------------------------	------------------	-------------------------

変更履歴

管理者に連絡



4.1 機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録(3/3)

「機器一覧」へ新規ターゲットホストの登録

- 最後の項目へ下表のように選択し登録をクリックして下さい。

Exastro IT Automation 基本コンソール

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
[パスワード変更] [ログアウト]

3

Legacy/Role利用情報
認証方式
パスワード認証

△閉じる

Ansible利用情報
Legacy/Role利用情報
WinRM接続情報
最終更新日時 最終更新者

管理システム項目 認証方式 ポート番号 サーバー証明書 フ

自動入力 パスワード認証 ファイルを選択 選択されていません
事前アップロード
アップロード状況:

※*は必須項目です。

戻る 登録

4

全件ダウンロードとファイルアップロード編集
変更履歴

管理者に連絡

Playbookをアップロードしてジョブ(Movement)に紐付け

ジョブ(Movement)をジョブフロー(Conductor)に組込み

CMDBにデータシートとパラメータシートを設定

データシートにデータを登録

パラメータシートの項目とPlaybookの変数の紐付け

機器一覧にターゲットとなるLinuxマシンを登録

Point

Ansible-Legacyを実行するための必須入力項目は以下の6項目です。
[ホスト名][IPアドレス][ログインユーザID]
[ログインパスワード管理][ログインパスワード]
[認証方式※]
※本書は「パスワード認証」で記載します。

4.2 作業名(Operation)の登録

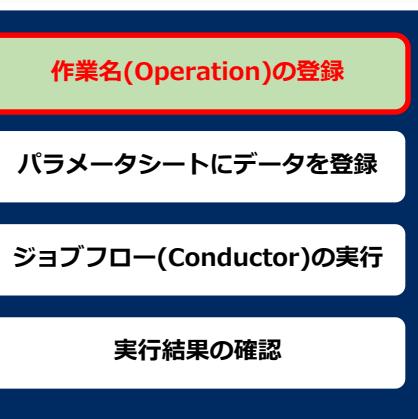
「オペレーション一覧」へ新規オペレーション名を登録

- 次にオペレーション名を登録していきます。

「基本コンソール」メニューグループ >> 「オペレーション一覧」メニューをクリック。

各項目へ入力、選択が完了したら登録をクリックして下さい。

The screenshot shows the 'Basic Console' interface. On the left, there's a sidebar with a menu. The 'Operations List' item is highlighted with a red box and a red number '1'. The main area is titled 'Operation List' and contains a search form with dropdown menus for filtering by status, ID, name, date, and user. Below the search is a 'Filter' button. A secondary window titled 'List/Update' is open, showing a table with columns: No., Operation ID, Operation Name, Implementation Date, Access Rights, Remarks, Last Update Date, and Last Updater. A row is selected, and its details are shown in a modal dialog. The modal has fields for 'Operation Name' (set to 'Operation 1') and 'Implementation Date' (set to '(Any Date)'). At the bottom of the modal are 'Back' and 'Register' buttons, with 'Register' highlighted with a red box and a red number '3'. A note at the bottom of the modal says '* * is a required field.' The bottom of the main window also has a note: 'All download and file upload functions are available in the full version.'



4.3 パラメータシートにデータを登録(1/2)

「インストールレパッケージ一覧」へ新規データを登録

- 次に実行前準備で用意したインストールパッケージ一覧(パラーメータシート)にデータを入力していきます。

「入力用」メニュー グループ >> 「インストールパッケージ一覧」メニューをクリック。
各項目へ入力、選択が完了したら登録をクリックして下さい。

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface with the following steps highlighted:

- 1**: Click on the "インストールパッケージ登録" button in the sidebar.
- 2**: Click on the "オペレーション" dropdown and select "2021/05/02 12:00_1:オペレーション1".
- 3**: Click the "登録" (Register) button at the bottom of the form.

The resulting table shows the registered host and operation details:

ホスト名	オペレーション	httpd	mariadb-server	php	perl	python
(機器登録で登録したホスト名)	(選択した実行予定日時)_1: オペレーション1	Yes		Yes	Yes	Yes

On the right side, there are three green boxes with text:

- パラメータシートにデータを登録 (Parameter sheet data entry)
- ジョブフロー(Conductor)の実行 (Job flow execution)
- 実行結果の確認 (Execution result confirmation)

4.3 パラメータシートにデータを登録(2/2)

「インストールパッケージ一覧」への登録

- 実行前準備の代入値自動登録設定の時と同様、表示フィルタを開き「フィルタ」ボタンをクリックして登録したデータを確認してください。

Exastro IT Automation 入力用

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
[パスワード変更] [ログアウト]

説明

△閉じる

1 表示フィルタ

2 フィルタ

3 フィルタクリア

オペレーション

操作	No	ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	最終更新日時	最終更新者
廃止	~	hostA	1	オペレーション1	2021/05/12 14:49	2021/05/02 12:00	2021/05/12 14:49

オペレーション

履歴	更新	廃止	No	ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	インストールパッケージ	アク	最終更新日時	最終更新者	
履歴	更新	廃止	1	hostA	1	オペレーション1	2021/05/12 14:49	2021/05/02 12:00	2021/05/12 14:49	httpd, mariadb-server, php, perl, python	Yes	Yes	Yes	2021/05/13 19:50:12 システム管理者

パラメータ

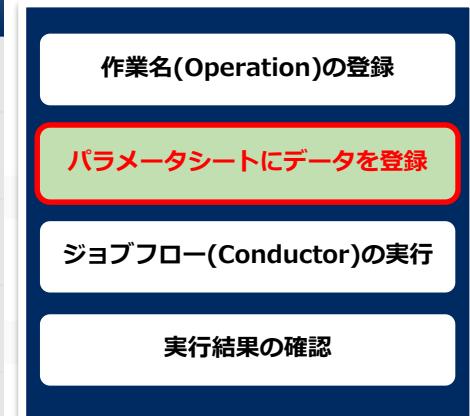
インストールパッケージ	アク
httpd, mariadb-server, php, perl, python	Yes

Excel出力

登録

管理者に連絡

今すぐロードとファイルアップロード選択



4.4 ジョブフロー(Conductor)の実行(1/3)

Conductorの実行

- いよいよ実行を行っていきます。
「Conductor」メニューグループ>>「Conductor作業実行」メニューをクリック。
実行する「Conductor」と「オペレーション」を選択し実行をクリックして下さい。

The screenshot shows the Exastro IT Automation Conductor interface. On the left, a sidebar menu has 'Conductor作業実行' (Conductor Job Execution) highlighted with a red box and number 1. The main content area has two tables. The top table, 'Conductor[一覧]' (Conductor List), has one item selected, highlighted with a red box and number 2. The bottom table, 'オペレーション[一覧]' (Operation List), also has one item selected, highlighted with a red box and number 3. To the right, a large window titled 'ジョブフロー(Conductor)の実行' (Job Flow (Conductor) Execution) displays a workflow diagram with nodes and connections. A button labeled '実行' (Execute) is highlighted with a red box and number 4.

Exastro IT Automation Conductor

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]

パスワード変更 ログアウト

三 Menu

メインメニュー

Conductorインターフェース情報

Conductorクラス一覧

Conductorクラス編集

1 Conductor作業実行

Conductor作業確認

Conductor作業一覧

Conductor定期作業実行

説明

スケジューリング

Conductor[フィルタ]

Conductor[一覧]

2

選択 ConductorクラスID ◆ Conductor名稱 ◆ 説明 ◆ アクセス権

1 パッケージインストール パッケージインストール(サンプル)

アクセス許可ロール ◆ 備考 ◆ 最終更新日時 ◆ 最終更新者 ◆

フィルタ結果件数: 1

オペレーション[フィルタ]

オペレーション[一覧]

3

選択 No. ◆ オペレーションID ◆ オペレーション名 ◆ 実施予定日時 ◆ 最終実行日時 ◆ アクセス権

1 1 オペレーション1 2021/05/02 12:00 2021/04/22 14:04

アクセス許可ロール ◆

フィルタ結果件数: 1

Conductor実行

EXECUTE

4

作業名(Operation)の登録

パラメータシートにデータを登録

ジョブフロー(Conductor)の実行

実行結果の確認

Name : パッケージインストール
Note : パッケージインストール(サンプル)

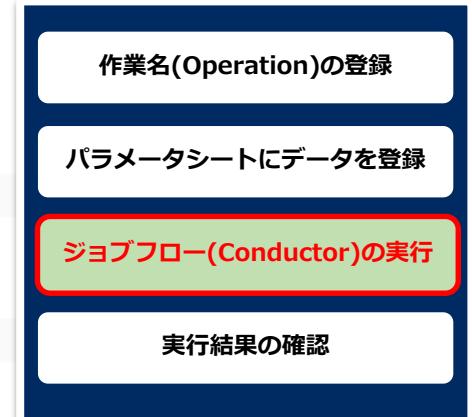
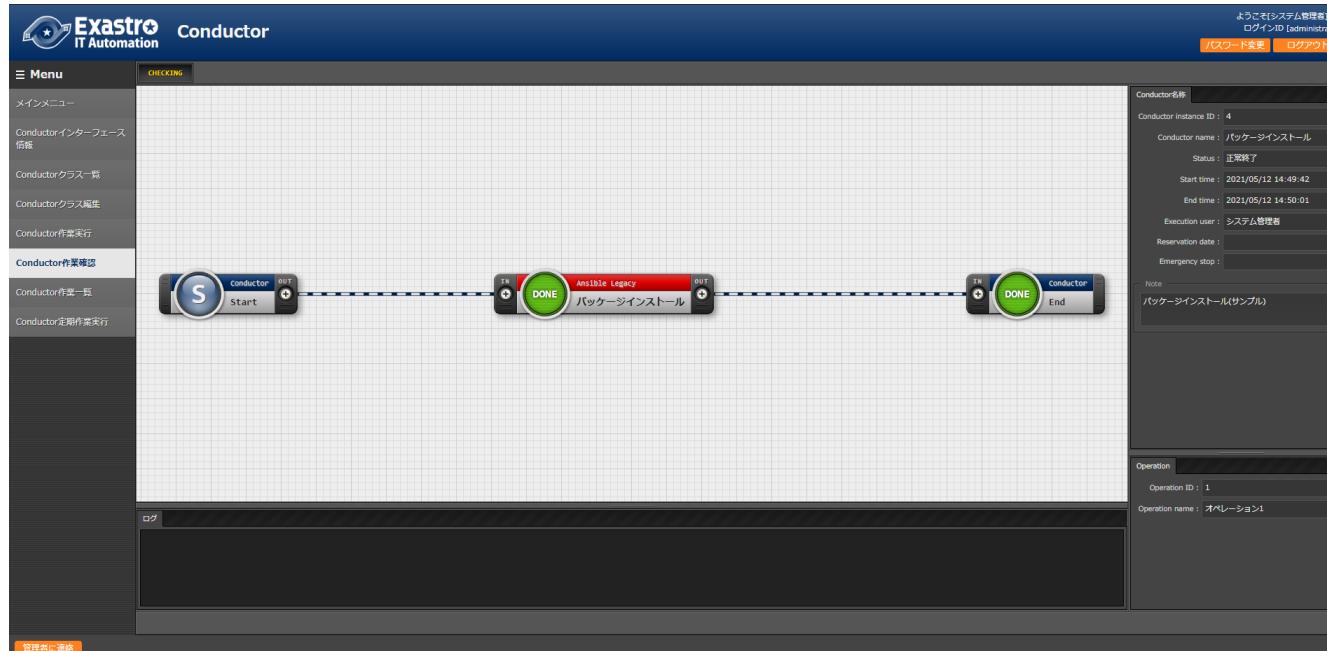
Operation
Operation ID : 1
Operation name : オペレーション1

ログ

4.4 ジョブフロー(Conductor)の実行(2/3)

実行結果確認

- 実行すると「Conductor作業確認」メニュー画面に切替わり、実行ステータスやログが表示されます。



Point

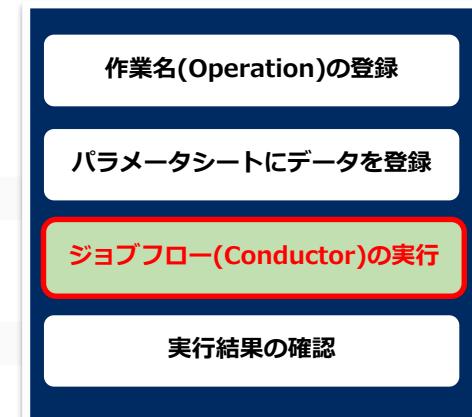
実行ステータスやログを
リアルタイムで
確認可能です。

4.4 ジョブフロー(Conductor)の実行(3/3)

実行結果確認

- ジョブ(Movement)を選択し、Doneのアイコンまたは右側のOperation statusをクリックすると詳細が表示されます。

The screenshot shows the Exastro Conductor interface. On the left, there's a navigation menu with items like 'Menu', 'Conductor', 'Ansible Legacy', 'Movement', 'Playbook', 'Movement-Playbook組付', '代入値自動登録設定', '作業対象ホスト', '代入値管理', '作業実行', '作業状態確認', and '作業管理'. The main area displays a workflow diagram with nodes: 'Conductor Start' (S), 'Ansible Legacy' (with a 'DONE' button), 'DUT' (with a 'DONE' button), and 'Conductor End'. A red box highlights the 'DONE' button on the 'Ansible Legacy' node, with a callout '1 選択' (Select). To the right, a detailed view of the 'Ansible Legacy' node shows its configuration: Movement type: movement, Node Instance ID: 12, Node name: node-3, Status: 正常終了 (Normal Completed), Start time: 2021/05/12 14:49:42, End time: 2021/05/12 14:49:58, Operation state: 作業は実行済 (The job is completed), Operation ID: 10, and Operation name: バッケージインストール (Package Installation). Below this is a table titled '対象作業' (Target Job) with columns '項目' (Item) and '値' (Value), listing various parameters like Movement ID, Movement Name, and Ansible Engine.



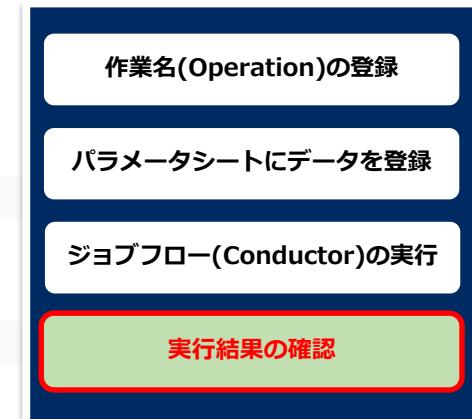
4.5 実行結果の確認(1/3)

実行ログの確認

- 詳細画面の進行状況(実行ログ)でAnsibleの実行ログを確認していきます。

The screenshot shows the Ansible execution log details screen. On the left, there's a sidebar with various menu items. The 'Execution Log' item is highlighted in orange. The main area has two tabs: 'Execution Log (Execution Log)' and 'Error Log (Error Log)'. The 'Execution Log' tab is active and displays the following Ansible output:

```
httpd-tools.x86_64 0:2.4.6-97.el7.centos libzip.x86_64 0:0.10.1-8.el7  
mailcap.noarch 0:2.1.41-2.el7 php-cli.x86_64 0:5.4.16-48.el7  
php-common.x86_64 0:5.4.16-48.el7  
  
Updated:  
perl.x86_64 4:5.16.3-299.el7_9 python.x86_64 0:2.7.5-90.el7  
  
Dependency Updated:  
perl-libs.x86_64 4:5.16.3-299.el7_9 python-langs.x86_64 0:2.7.5-90.el7  
  
Complete!  
[  
]  
META: ran handlers  
META: ran handlers  
  
PLAY RECAP ****  
ita-test-target01 : ok=1    changed=1    unreachable=0    failed=0    skipped=0    rescued=0    ignored=0  
4
```



4.5 実行結果の確認(2/3)

実行ログの確認

- httpd,php,perl,pythonをインストールされているか実行ログから確認して下さい。

進行状況(実行ログ)の一部

Installed:

```
httpd.x86_64 0:2.4.6-97.el7.centos      php.x86_64 0:5.4.16-48.el7
```

Dependency Installed:

```
httpd-tools.x86_64 0:2.4.6-97.el7.centos  libzip.x86_64 0:0.10.1-8.el7  
mailcap.noarch 0:2.1.41-2.el7            php-cli.x86_64 0:5.4.16-48.el7  
php-common.x86_64 0:5.4.16-48.el7
```

Updated:

```
perl.x86_64 4:5.16.3-299.el7_9        python.x86_64 0:2.7.5-90.el7
```

Dependency Updated:

```
perl-libs.x86_64 4:5.16.3-299.el7_9    python-libs.x86_64 0:2.7.5-90.el7
```

Complete!

```
"  
]  
}
```

作業名(Operation)の登録

パラメータシートにデータを登録

ジョブフロー(Conductor)の実行

実行結果の確認

4.5 実行結果の確認(3/3)

ターゲットマシンの確認

- ターゲットマシンでもパッケージがインストールできていることを確認して下さい。

hostA

```
$ yum list installed httpd
Loaded plugins: fastestmirror, langpacks
Loading mirror speeds from cached hostfile
* base: ftp-srv2.kddilabs.jp
* extras: ftp-srv2.kddilabs.jp
* updates: ftp-srv2.kddilabs.jp
Installed Packages
httpd.x86_64          2.4.6-97.el7.centos      @updates
```

作業名(Operation)の登録

パラメータシートにデータを登録

ジョブフロー(Conductor)の実行

実行結果の確認

5. 実行操作(2回目)



5.1 作業名(Operation)の登録

「オペレーション一覧」へ新規オペレーション名を登録

- ここからは1回目のオペレーション名登録以降の作業と同様になります。

「基本コンソール」メニューグループ >> 「オペレーション一覧」メニューをクリック。

各項目へ入力、選択が完了したら登録をクリックして下さい。

Exastro IT Automation 基本コンソール

ようこそ[システム管理者]さん
ログインID [administrator]
パスワード変更 ログアウト

Menu

メインメニュー

機器一覧

オペレーション一覧 ①

Movement一覧

ER図表示

説明

△開く

表示フィルタ

△閉じる

No. オペレーションID オペレーション名 実施予定日時 最終更新日時 最終更新者

廃止しまず ~ ~ ~ ~ ~

▼ ブルダウント検索 ▼ ブルダウント検索 ▼ ブルダウント検索

Table setting

フィルタ フィルタクリア

オートフィルタ

一覧/更新

△開く

登録

△閉じる

No. オペレーションID オペレーション名 実施予定日時 アクセス権 備考 最終更新日時 最終更新者

自動入力 自動入力 オペレーション2 2021/07/08 18:00 設定 アクセス権コントロール

※*は必須項目です。

戻る 登録 ③

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

管理者に連絡

「作業名(Operation)の登録」

「パラメータシートにデータを登録」

「ジョブフロー(Conductor)の実行」

「実行結果の確認」

オペレーション名 オペレーション2

実施予定日時 (任意の日時)

5.2 パラメータシートにデータを登録

「インストールパッケージ一覧」新規データを登録

- 「入力用」メニュー グループ >> 「インストールパッケージ一覧」メニューをクリック。各項目へ入力、選択が完了したら登録をクリックして下さい。
1回目とインストールするパッケージが異なるので注意して下さい。

Exastro
IT Automation

入力用

説明

メインメニュー

インストールパッケージ一覧

フラグ定義

レタ_更新

登録

最終更新日時

最終更新者

オペレーション

操作

No ホスト名*

オペレーション*

httpd mariadb-server php perl python

自動入力 hostA 2021/07/08 18:00_3:オペレーション2 Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes

※*は必須項目です。

戻る 登録

全件ダウンロードとファイルアップロード編集

作業名(Operation)の登録

パラメータシートにデータを登録

ジョブフロー(Conductor)の実行

実行結果の確認

ホスト名	オペレーション	httpd	mariadb-server	php	perl	python
(機器登録で登録したホスト名)	(選択した実行予定日時)_2: オペレーション2	Yes	Yes	Yes	Yes	Yes

5.3 ジョブフロー(Conductor)の実行(1/3)

Conductorの実行

- 2回目の実行も行っていきます。

「Conductor」メニューグループ>>「Conductor作業実行」メニューをクリック。
実行する「Conductor」と「オペレーション」を選択し実行をクリックして下さい。

The screenshot shows the Exastro IT Automation Conductor interface. On the left, the 'Menu' sidebar is visible with various options like 'Conductor作業実行' (highlighted with a red box and labeled 1), 'Conductor作業確認', 'Conductor作業一覧', and 'Conductor定期作業実行'. The main area has two tabs: 'Conductor[フィルタ]' (highlighted with a red box and labeled 2) and 'Conductor[一覧]'. The 'Conductor[一覧]' tab displays a table with one row selected (highlighted with a red box and labeled 3). Below it is the 'オペレーション[一覧]' tab, which also displays a table with two rows selected (highlighted with a red box and labeled 3). A large red circle labeled 4 points to the '実行' (Execute) button at the bottom right of the interface.

1 Conductor作業実行

2 Conductor[フィルタ]

3 Conductor[一覧]

4 実行

作業名(Operation)の登録

パラメータシートにデータを登録

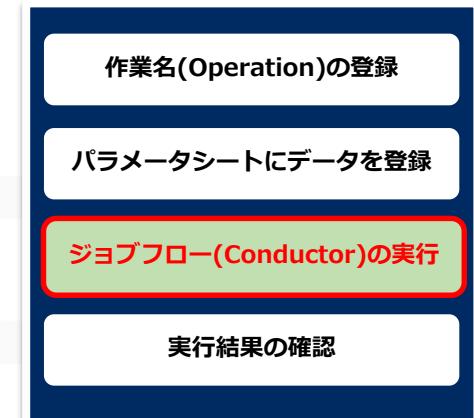
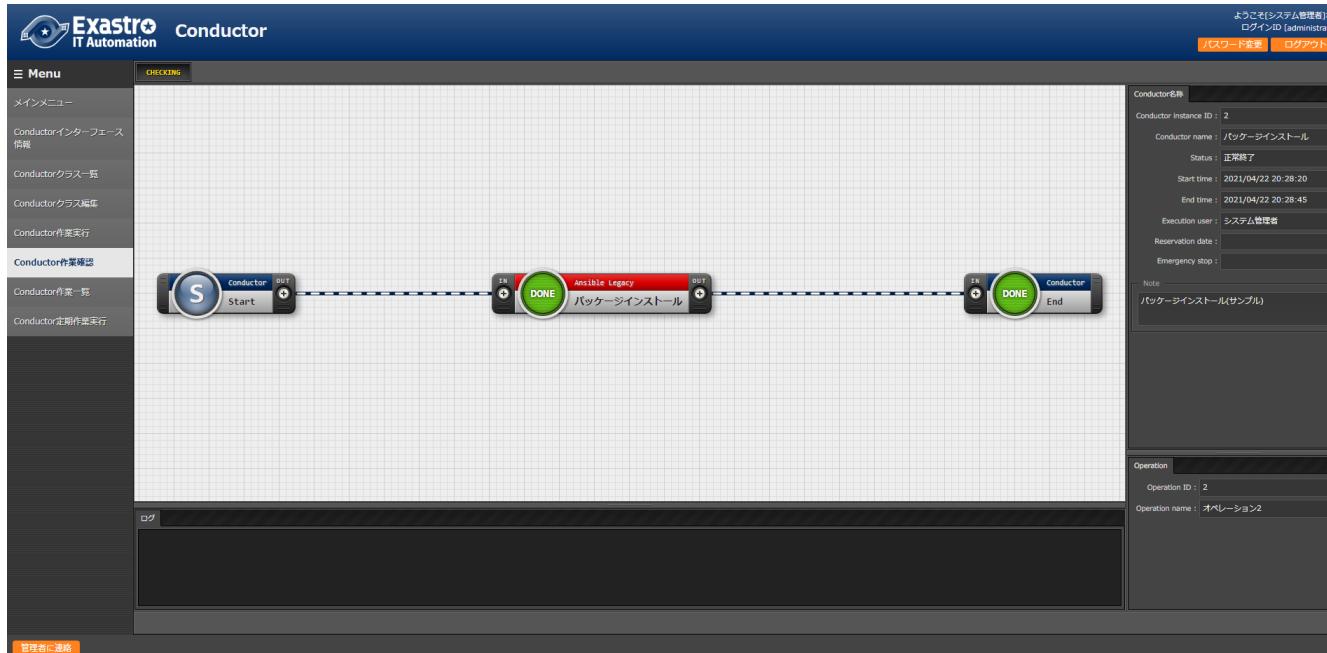
ジョブフロー(Conductor)の実行

実行結果の確認

5.3 ジョブフロー(Conductor)の実行(2/3)

作業結果確認

- 実行すると「Conductor作業確認」メニュー画面に切替わり、実行ステータスやログが表示されます。



Point

実行ステータスやログをリアルタイムで確認可能です。

5.3 ジョブフロー(Conductor)の実行(3/3)

作業結果確認

- ジョブ(Movement)を選択し、Doneのアイコンまたは右側のOperation statusをクリックすると詳細が表示されます。

Exastro Conductor

Menu

メインメニュー
Conductorインターフェース情報
Conductorクラスク一覧
Conductorクラス属性
Conductor作業実行
Conductor作業確認
Conductor作業一覧
Conductor定期作業実行

ログ

管理者に連絡

CHECKING

S Conductor Start DONE Ansible Legacy バッケージインストール GPT

Node

Node type : movement
Node instance ID : 6
Node name : node-3
Status : 正常終了
Start time : 2021/04/22 20:28:20
End time : 2021/04/22 20:28:42
Operation status : 作業状況確認
Operation ID :
Operation name :
Note :

Ansible-Legacy

Menu

メインメニュー
Movement一覧
Playbook実行
Movement-Playbook追付
代入値自動登録設定
作業対象ホスト
代入値管理
作業実行
作業状態確認
作業管理

LOG

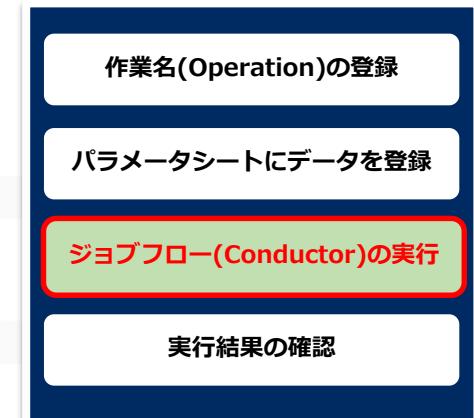
管理者に連絡

1 選択

Ansible Legacy バッケージインストール

進行状況(実行ログ)

管理者に連絡



5.4 実行結果の確認(1/2)

作業結果確認

- 詳細画面の進行状況(実行ログ)でAnsibleの実行ログを確認します。

The screenshot shows the Ansible execution log details. At the top, there is a summary table with the following data:

出力データ	結果データ	ResultData_000000002.zip
予約日時		
作業状況	開始日時	2021/04/22 20:28:26
	終了日時	2021/04/22 20:28:38

The main area displays the "Execution Log (Details)" window, which is highlighted with a red box. The window title is "進行状況(実行ログ)". It contains a search bar and a scrollable log output. The log output shows the following Ansible execution details:

```
perl-Compress-Raw-Zlib.x86_64 1:2.061-4.el7
perl-DBD-MySQL.x86_64 0:4.023-6.el7
perl-DBI.x86_64 0:1.627-4.el7
perl-IO-Compress.noarch 0:2.061-2.el7
perl-Net-Daemon.noarch 0:0.48-5.el7
perl-PICRPC.noarch 0:0.2020-14.el7

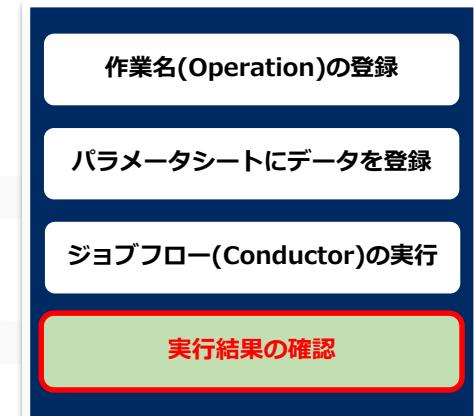
Dependency Updated:
mariadb-libs.x86_64 1:5.5.68-1.el7

Complete!
]

META: ran handlers
META: ran handlers

PLAY RECAP ****
ita-test-target01 : ok=1    changed=1    unreachable=0    failed=0    skipped=0    rescued=0    ignored=0
```

Below this window is another one titled "進行状況(エラーログ)" (Execution Log (Error)) which is currently empty.



5.4 実行結果の確認(2/2)

実行ログの確認

- 新たにmariadbのインストールと他のパッケージとの依存関係の解決、他の4つのパッケージ(htpd,php,perl,python)のバージョンアップが行われていることを確認して下さい。

進行状況(実行ログ)の一部

```
Package httpd-2.4.6-97.el7.centos.x86_64 already installed and latest version¥
Package php-5.4.16-48.el7.x86_64 already installed and latest version¥
Package 4:perl-5.16.3-299.el7_9.x86_64 already installed and latest version¥
Package python-2.7.5-90.el7.x86_64 already installed and latest version¥

~~~~~省略~~~~~

Installed:
  mariadb-server.x86_64 1:5.5.68-1.el7

Dependency Installed:
  mariadb.x86_64 1:5.5.68-1.el7
  perl-Compress-Raw-Bzip2.x86_64 0:2.061-3.el7
  perl-Compress-Raw-Zlib.x86_64 1:2.061-4.el7
  perl-DBD-MySQL.x86_64 0:4.023-6.el7
  perl-DBI.x86_64 0:1.627-4.el7
  perl-IO-Compress.noarch 0:2.061-2.el7
  perl-Net-Daemon.noarch 0:0.48-5.el7
  perl-PIRPC.noarch 0:0.2020-14.el7

Dependency Updated:
  mariadb-libs.x86_64 1:5.5.68-1.el7

Complete!
"
]
```

作業名(Operation)の登録

パラメータシートにデータを登録

ジョブフロー(Conductor)の実行

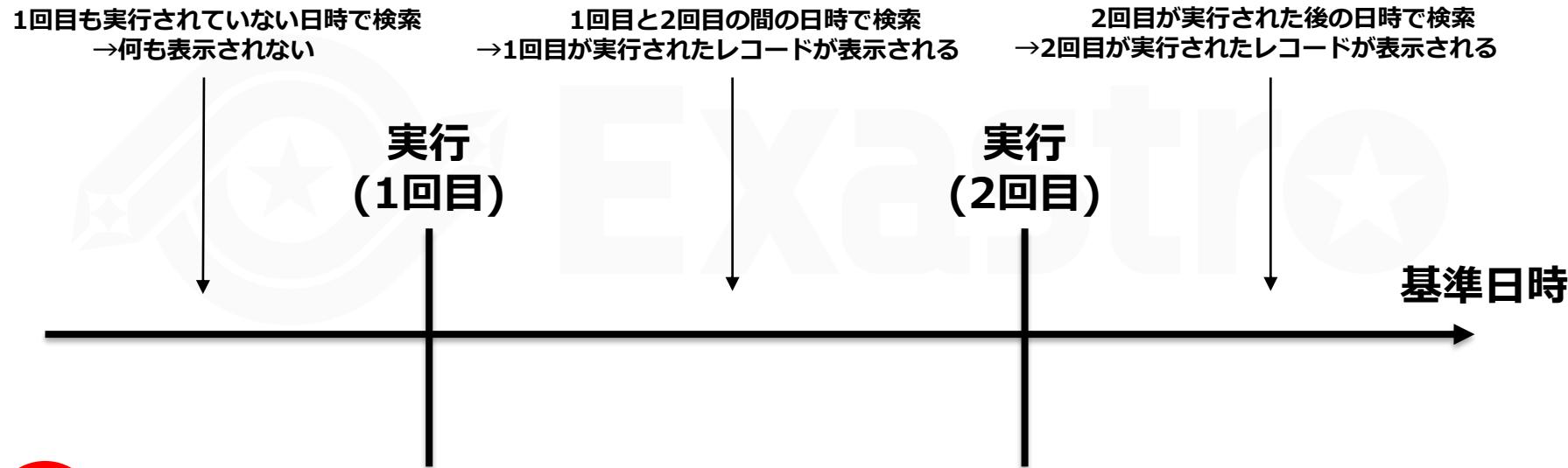
実行結果の確認

6. CMDBパラメータの履歴確認

6.1 作業実行と履歴管理

履歴管理と本シナリオのポイント

- ITAはCMDBに「誰が・いつ・何をしたのか？」を履歴管理し、その時の時点でシステムのパラメータはどうなっているのかを抽出できる機能があります。パラメータの履歴管理することにより、設計者や運用者がストレスなくシステム更改を行うことができます。



Point

今回のクイックスタートではパラメータの履歴管理を体験していただくために、実行を2回行いました。

6.2 CMDBパラメータの履歴を確認する(1/3)

履歴確認

- 実際にパラメータが管理できているかどうか確認をしていきます。
「参照用」メニューグループ >> 「インストールパッケージ一覧」メニューをクリック。
まずは基準日付を入力せずにフィルタをかけます。(次ページへ続く)

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface with the following steps highlighted:

- ① The 'インストールパッケージ一覧' (Installed Package List) menu item is highlighted.
- ② A red box highlights the '基準日付' (Base Date) input field, with a callout '何も入力せずにフィルタをクリック' (Click the filter without entering any input).
- ③ A red box highlights the 'フィルタ' (Filter) button.
- ④ A red box highlights the table header, with a callout '現時点での最新のデータが表示されることを確認する' (Confirm that the latest data is displayed at the present time).

The table displays the following data:

履歴	No	ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	Yes	Yes	Yes	Yes	アクセス許可ロール	備考	最終更新日時	最終更新者
履歴	2	hostA	2	オペレーション2	2021/04/22 20:28	2021/05/29 18:00	2021/04/22 20:28	Yes	Yes	Yes	Yes	python		2021/04/23 19:24:52	システム管理者

6.2 CMDBパラメータの履歴を確認する(2/3)

履歴確認

- 次に2回目の実行を行った基準日時より前の日付を入力してフィルタをかけます。
(次ページへ続く)

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface with the following steps highlighted:

1. A red circle points to the "オペレーション 基準日時" dropdown menu, which contains the date "2021/04/22 20:25". A callout box says: "2回目の実行を行った日時より前の日時を入力し フィルタをクリック".
2. A red circle points to the "フィルタ" button in the filter bar.
3. A red circle points to the table results area, which displays one row of data. A callout box says: "1回目の実行結果が表示されることを確認する".

The table data is as follows:

履歴	No	ホスト名	オペレーション			パラメータ			アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
			ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	インストールパッケージ				
実績	1	hostA	1. オペレーション1	2021/04/22 14:04	2021/05/02 12:00	2021/04/22 14:04	Yes	httpd, mariadb-server, php, perl, python	Yes, Yes, Yes		2021/04/23 19:24:45	システム管理者

6.2 CMDBパラメータの履歴を確認する(3/3)

履歴確認

- 最後に1回目の実行を行った基準日時より前の日付を入力してフィルタをかけます。

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface with the following steps highlighted:

- 1**: A red circle points to the "基準日時" (Baseline Date) input field in the "表示フィルタ" (Display Filter) section. A callout box contains the text: "1回目の実行を行った日時より前の日時を入力し フィルタをクリック".
- 2**: A red circle points to the "フィルタ" (Filter) button in the "表示フィルタ" section.
- 3**: A red circle points to the "レコードはありません" (No records found) message in the main list area. A callout box contains the text: "何も表示されないことを確認する".

The interface includes a top navigation bar with the Exastro logo, user information (ようこそ[システム管理者]さん ログインID [administrator]), and buttons for "パスワード変更" (Change Password) and "ログアウト" (Logout). The left sidebar has sections for "Menu", "メインメニュー", and "インストールパッケージ一覧". The main content area has tabs for "説明" (Description), "表示フィルタ" (Display Filter), "一覧" (List), "全件ダウンロード" (Download All), and "変更履歴" (Change History).

A 付録



参考① 【Ansible-Legacy】 単体実行

作業実行

- Ansible-Legacyは「作業実行」メニューがあり Movementごとに個別実行や、ドライランが可能です。

The screenshot shows the Ansible-Legacy interface under the 'Execution' menu. It displays three main steps:

- 1** Movement selection: A red box highlights the 'Movement' section where 'Movement ID 1' (名前: パッケージインストール, 状態: Ansible Legacy) is selected.
- 2** Operation selection: A red box highlights the 'Operation' section where 'Operation 1' (名前: オペレーション1, 実施予定期間: 2021/05/02 12:00 - 2021/05/12 14:49) is selected.
- 3** Dry Run: A red box highlights the bottom buttons 'Dry Run' and 'Execute'.

作成済みのMovementを選択

Movementと紐づいたオペレーションを選択

ドライラン
: プレイブックの接続確認/構文チェック
実行
: プレイブックを実行

参考② 【Ansible-Legacy】 実行確認

作業結果確認

- 実行(またはドライラン)すると画面が切替わり、実行ステータスやログが表示されます。

The screenshot shows the Exastro IT Automation interface with the Ansible-Legacy module selected. The main window displays the execution status of a job, including details like engine, host, and user. A red box highlights the 'Input Data' and 'Output Data' fields, which point to a download feature. Another red box highlights the log output, which is shown in two tabs: 'Execution Log' and 'Error Log'. A third red box highlights the 'Point' text in a callout, indicating the log and data download features.

Point

実行ステータスや、
投入データが確認可能です。

Point

実行ログやエラーログを
リアルタイムで確認可能です。

Point

投入データや結果データを
ダウンロードすることも可能です。



Exastro